2026.10.5

尼崎市総合計画審議会
第2回第１分科会

資料第１号

総合計画審議会・第2回分科会

尼崎市　都市政策課

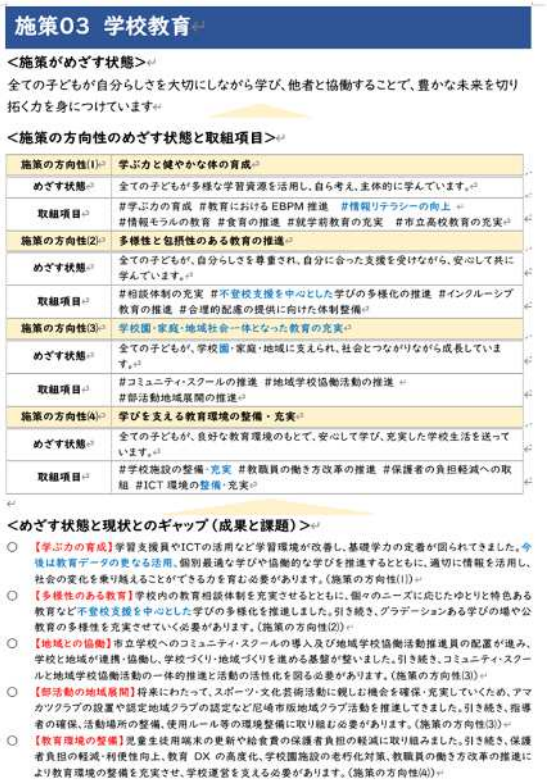
本日の趣旨

左側ページ

（前回確認済み）

めざす状態や取組項目、成果と課題など

定性的な内容を記載



施策03　学校教育

<施策がめざす状態>

全ての子どもが自分らしさを大切にしながら学び、他者と協働することで、豊かな未来を切り拓く力を身につけています

<施策の方向性のめざす状態と取組項目>

施策の方向性(1)	学ぶ力と健やかな体の育成
めざす状態	全ての子どもが多様な学習資源を活用し、自ら考え、主体的に学んでいます。
取組項目	#学ぶ力の育成　#教育における EBPM 推進　#情報リテラシーの向上 #情報モラルの教育　#食育の推進　#就学前教育の充実　#市立高校教育の充実
施策の方向性(2)	多様性と包摂性のある教育の推進
めざす状態	全ての子どもが、自分らしさを尊重され、自分に合った支援を受けながら、安心して共に学んでいます。
取組項目	#相談体制の充実　#不登校支援を中心とした学びの多様化の推進　#インクルーシブ教育の推進　#合理的配慮の提供に向けた体制整備
施策の方向性(3)	学校園・家庭・地域社会一体となった教育の充実
めざす状態	全ての子どもが、学校園・家庭・地域に支えられ、社会とつながりながら成長しています。
取組項目	#コミュニティ・スクールの推進　#地域学校協働活動の推進 #部活動地域展開の推進
施策の方向性(4)	学びを支える教育環境の整備・充実
めざす状態	全ての子どもが、良好な教育環境のもとで、安心して学び、充実した学校生活を送っています。
取組項目	#学校施設の整備・充実　#教職員の働き方改革の推進　#保護者の負担軽減への取組　#ICT 環境の整備・充実

<めざす状態と現状とのギャップ（成果と課題）>

- 【学ぶ力の育成】学習支援員やICTの活用など学習環境が改善し、基礎学力の定着が図られてきました。今後は教育データの更なる活用、個別最適な学びや協働的な学びを推進するとともに、適切に情報を活用し、社会の変化を乗り越えることができる力を育む必要があります。（施策の方向性(1)）
- 【多様性のある教育】学校内の教育相談体制を充実させるとともに、個々のニーズに応じたゆとりと特色ある教育など不登校支援を中心とした学びの多様化を推進しました。引き続き、グラデーションある学びの場や公教育の多様性を充実させていく必要があります。（施策の方向性(2)）
- 【地域との協働】市立学校へのコミュニティ・スクールの導入及び地域学校協働活動推進員の配置が進み、学校と地域が連携・協働し、学校づくり・地域づくりを進める基盤が整いました。引き続き、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進と活動の活性化を図る必要があります。（施策の方向性(3)）
- 【部活動の地域展開】将来にわたって、スポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実していくため、アマカツクラブの設置や認定地域クラブの認定など尼崎市版地域クラブ活動を推進してきました。引き続き、指導者の確保、活動場所の整備、使用ルール等の環境整備に取り組む必要があります。（施策の方向性(3)）
- 【教育環境の整備】児童生徒用端末の更新や給食費の保護者負担の軽減に取り組みました。引き続き、保護者負担の軽減・利便性向上、教育 DX の高度化、学校園施設の老朽化対策、教職員の働き方改革の推進により教育環境の整備を充実させ、学校運営を支える必要があります。（施策の方向性(4)）

<まちづくりの総合指標>

市民の「豊かさ」実感（個人幸福度）
地域の「豊かさ」実感（地域幸福度）
暮らしの「豊かさ」実感（生活満足度）

調整中

<施策の代表指標>

「○○○○○○○○○○○○○○○まち」だと感じる市民の割合

基準値 ：○○.○%（R8）
方向性 ：↑

<施策の方向性ごとの代表指標>

施策の方向性(1)	学ぶ力と健やかな体の育成		
代表指標	「○○○○○○○○○○○○○○○まち」だと感じる市民の割合		
基準値	○○.○%（R8）	指標の方向性	↑
施策の方向性(2)	多様性と包摂性のある教育の推進		
代表指標	「○○○○○○○○○○○○○○○」だと感じる市民の割合		
基準値	○○.○%（R8）	指標の方向性	↑
施策の方向性(3)	学校園・家庭・地域社会一体となった教育の充実		
代表指標	「○○○○○○○○○○○○○○○まち」だと感じる市民の割合		
基準値	○○.○%（R8）	指標の方向性	↑
施策の方向性(4)	学びを支える教育環境の整備・充実		
代表指標	「子どもが良好な教育環境で学べるまち」だと感じる市民の割合		
基準値	○○.○%（R8）	指標の方向性	↑

右側ページ

（今回確認）

施策全体・施策の方向性ごとのめざす状態を測るアウトカム指標を設定

今回の趣旨

- 前回の議論を踏まえた「左側ページ」の修正内容（**青字部分**）を確認
- 「右側ページ」のアウトカム指標の設定について確認

配布資料

①資料第２号

左側ページ



修正箇所を青字で記載

＋

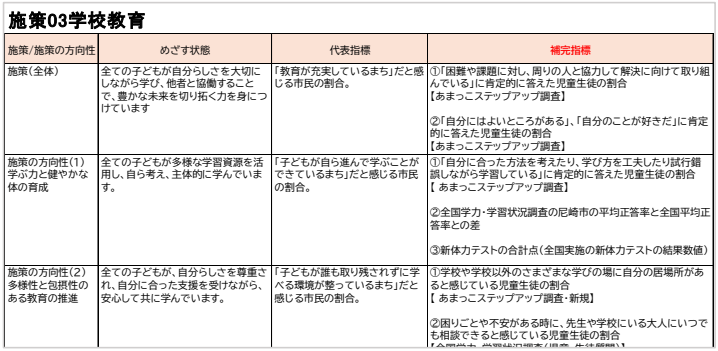
右側ページ



めざす状態を測る
代表指標を設定

＋

補完指標一覧



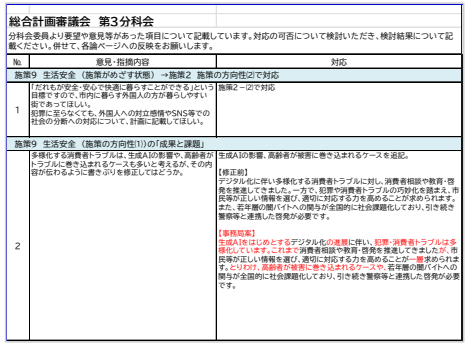
施策03学校教育

施策/施策の方向性	めざす状態	代表指標	補完指標
施策(全体)	全ての子どもが自分らしさを大切にしながら学び、他者と協働することで、豊かな未来を切り拓く力を身につけています	「教育が充実しているまち」だと感じる市民の割合。	①「困難や課題に対し、周りの人と協力して解決に向けて取り組んでいる」に肯定的に答えた児童生徒の割合 【あまっこステップアップ調査】 ②「自分にはよいところがある」、「自分のことが好きだ」に肯定的に答えた児童生徒の割合 【あまっこステップアップ調査】
施策の方向性(1) 学ぶ力と健やかな体の育成	全ての子どもが多様な学習資源を活用し、自ら考え、主体的に学んでいます。	「子どもが自ら進んで学ぶことができているまち」だと感じる市民の割合。	①「自分に合った方法を考えたり、学び方を工夫したり試行錯誤しながら学習している」に肯定的に答えた児童生徒の割合 【 あまっこステップアップ調査】 ②全国学力・学習状況調査の尼崎市の平均正答率と全国平均正答率との差 ③新体力テストの合計点(全国実施の新体力テストの結果数値)
施策の方向性(2) 多様性と包摂性のある教育の推進	全ての子どもが、自分らしさを尊重され、自分に合った支援を受けながら、安心して共に学んでいます。	「子どもが誰も取り残されずに学べる環境が整っているまち」だと感じる市民の割合。	①学校や学校以外のさまざまな学びの場に自分の居場所があると感じている児童生徒の割合 【 あまっこステップアップ調査・新規】 ②困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると感じている児童生徒の割合

代表指標で捉えきれない部分に設定する
補完指標の一覧

②参考資料１　左側ページの意見と反映状況

前回分科会でのご意見の対応状況を整理



総合計画審議会　第3分科会

分科会委員より要望や意見等があった項目について記載しています。対応の可否について検討いただき、検討結果について記載ください。併せて、各論ページへの反映をお願いします。

No.	意見・指摘内容	対応
施策9　生活安全（施策がめざす状態）→施策2　施策の方向性(2)で対応		
1	「だれもが安全・安心で快適に暮らすことができる」という目標ですので、市内に暮らす外国人の方が暮らしやすい街であってほしい。 犯罪に至らなくても、外国人への対立感情やSNS等での社会の分断への対応について、計画に記載してほしい。	施策2－(2)で対応
施策9　生活安全（施策の方向性(1)）の「成果と課題」		
2	多様化する消費者トラブルは、生成AIの影響や、高齢者がトラブルに巻き込まれるケースも多いと考えるが、その内容が伝わるように書き ぶりを修正してはどうか。	生成AIの影響、高齢者が被害に巻き込まれるケースを追記。 【修正前】 デジタル化に伴い多様化する消費者トラブルに対し、消費者相談や教育・啓発を推進してきました。一方で、犯罪や消費者トラブルの巧妙化を踏まえ、市民等が正しい情報を選び、適切に対応する力を高めることが求められます。また、若年層の闇バイトへの関与が全国的に社会課題化しており、引き続き警察等と連携した啓発が必要です。 【事務局案】 生成AIをはじめとするデジタル化の進展に伴い、犯罪・消費者トラブルは多様化しています。これまで消費者相談や教育・啓発を推進してきましたが、市民等が正しい情報を選び、適切に対応する力を高めることが一層求められます。とりわけ、高齢者が被害に巻き込まれるケースや、若年層の闇バイトへの関与が全国的に社会課題化しており、引き続き警察等と連携した啓発が必要です。

後期計画の各論ページ（見開き右側ページ）

●右側ページは、施策と各施策の方向性の指標など、定量的な内容を記載しています。

●各指標については、後述する「指標設定の考え方」に基づき、施策と各施策の方向性ごとに代表指標と必要に応じて補完指標を設定しています。

●補完指標については、各論ページには掲載せず、後期計画の資料編に掲載します。

（補完指標の内容は、補完指標一覧を参照）

●代表指標の基準値（R8）については、今後市民アンケートを実施して取得します。



<まちづくりの総合指標>

市民の「豊かさ」実感（個人幸福度） 地域の「豊かさ」実感（地域幸福度） 暮らしの「豊かさ」実感（生活満足度）	調整中

<施策の代表指標>

「○○○○○○○○○○○○○○○まち」だと感じる市民の割合
基準値 ：○○.○%（R8）
方向性 ：↑

<施策の方向性ごとの代表指標>

施策の方向性(1)	学ぶ力と健やかな体の育成		
代表指標	「○○○○○○○○○○○○○○○まち」だと感じる市民の割合		
基準値	○○.○%（R8）	指標の方向性	↑
施策の方向性(2)	多様性と包摂性のある教育の推進		
代表指標	「○○○○○○○○○○○○○○○」だと感じる市民の割合		
基準値	○○.○%（R8）	指標の方向性	↑
施策の方向性(3)	学校園・家庭・地域社会一体となった教育の充実		
代表指標	「○○○○○○○○○○○○○○○まち」だと感じる市民の割合		
基準値	○○.○%（R8）	指標の方向性	↑
施策の方向性(4)	学びを支える教育環境の整備・充実		
代表指標	「子どもが良好な教育環境で学べるまち」だと感じる市民の割合		
基準値	○○.○%（R8）	指標の方向性	↑

指標設定の考え方

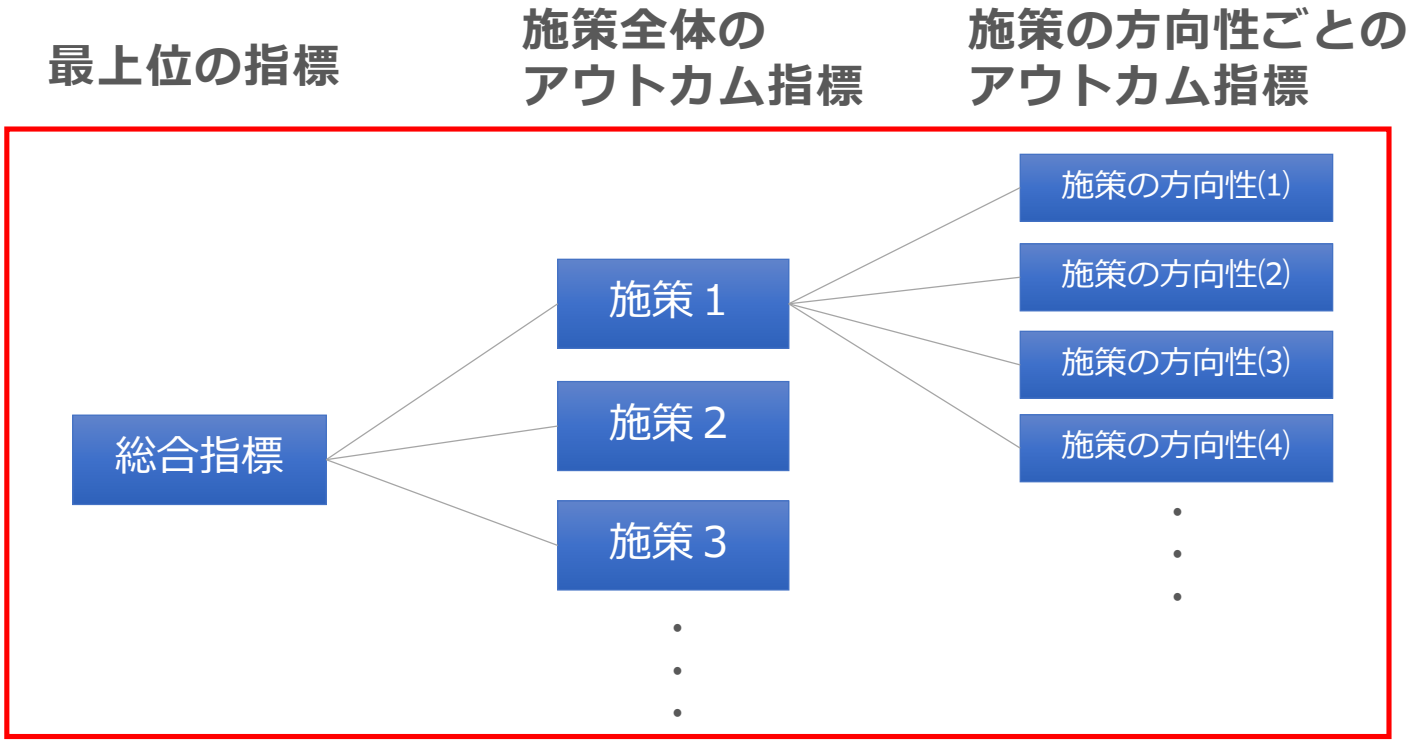
後期計画における指標設定の考え方

下位の指標から最上位の総合指標までのつながりを明確にするロジックモデルの構築に向けて、後期計画においては、以下の方針⑴～⑸に沿って指標を設定します。

方針⑴ 13施策の指標設定の方針

総合指標・施策・施策の方向性の３つの階層に「主観指標」を設定します。

同じ回答者からそれぞれの階層の主観指標を取得し、階層間の関連性の分析ができるようにします。



階層間の関連分析のため、
３つの階層の主観指標を
同一の市民アンケートで調査

例）
「○○しやすいまちだと思いますか」
→市民の主観的な実感を問う設問を設定

後期計画における指標設定の考え方

方針⑵ 代表指標と補完指標について
代表指標は左側ページの「めざす状態」を測る代表的なものを１つ主観指標として設定します。
代表指標だけでは把握しきれない成果や状態を補足する指標として、**必要に応じて複数の補完指標**を設定します。

施策９ 生活安全

<施策がめざす状態>

・
・
・

<施策の方向性のめざす状態と取組項目>

施策の方向性⑵	交通安全の確保と自転車を活用したまちづくりの推進
めざす状態	交通事故が起こりにくく、自転車で安全かつ快適に移動でき、自転車を活用したまちの魅力が感じられています。
取組項目	＃交通安全対策 ＃都市魅力の向上 ＃シェアサイクル ＃自転車走行環境の整備 ＃駐輪対策

代表指標

補完指標

＜指標設定例：施策９−施策の方向性⑵＞

・代表指標の設定例

指標：自転車が安全に利用されているまちだと感じる市民の割合
→「自転車の交通安全」の視点で設定

・補完指標の設定例

指標①：自転車関連事故認知件数
指標②：自転車盗難認知件数
指標③：自転車走行環境の整備割合
→「自転車を活用したまちの魅力向上」の視点で設定

後期計画における指標設定の考え方

方針⑶ 代表指標（主観指標）の設定ルール
以下のルールに沿って、施策の代表指標・施策の方向性ごとの代表指標を設定します。

●全市民を対象としたアンケートを前提とし、
「まち・地域・市民」の状態の変化を測る指標とします。
（特定の当事者だけが回答できる実感は避ける）
例　×「あなたのお子さんは学校で十分な教育を受けることができていると思う」
　　○「教育が充実しているまちだと思う」

●社会調査法を踏まえた設問とします。
・１つの設問では１つのことだけを聞く、
・誘導表現・曖昧な言葉・難解な専門用語を避ける。
例　×「教育、子育て、住環境が充実しているまちだと思う」
　　○「教育が充実しているまちだと思う」

これらのルールを踏まえて、国のウェルビーイング指標が活用可能なものは、参考としています。
目標値は置かず、指標の方向性のみを示すものとします（目標値の明確な根拠設定が困難なため）。

後期計画における指標設定の考え方

方針⑷ 補完指標の設定ルール
補完指標の設定は、以下のルールに沿って行う。

●「代表指標」だけでは把握しきれないものを、以下（1）～（3）の場合に多面的に補足します。
（１）網羅性　　：主観指標では捉えられない「めざす状態」の要素を補う必要がある場合
（２）当事者性　：当事者本人の実感を把握する必要がある場合
（３）客観性　　：客観的な状態で測ることが適切な場合

●補完指標は必要なものに限定して、0～3個を目安とします。

補完指標は、上記を踏まえ、公的資料、各局で把握している客観指標、当事者向けアンケート、市民意識調査などを活用して取得します。 **（補完指標の内容は、補完指標一覧を参照）**

なお、代表指標と同様、目標値は置かず、指標の方向性のみを示すものとします。

後期計画における指標設定の考え方

方針⑸ 行政運営の指標設定の方針

施策の代表指標は設定せず、施策の方向性のめざす状態ごとに代表指標（主観または客観指標）を設定します（13施策とは異なる取り扱い）

行政運営は、各施策を下支えし全施策の基盤となるものであり、市民の実感を把握することが困難なもの（人材育成や行財政、業務効率化など）が多いため、１３施策は異なる取り扱いとし、以下の方針で指標を設定します。

行政運営 03 【行財政】市民生活を支え続けるため

<施策がめざす状態>

将来にわたり持続可能かつ質の高い行政サービスを提供できる行財政運営が確立されています。

<施策の方向性のめざす状態と取組項目>

施策の方向性(1)	安定的な財政運営の推進
めざす状態	将来にわたり行政サービスを安定的かつ柔軟に提供できる財政運営を確立しています。
取組項目	#収支均衡の確保 #基金残高の確保及び戦略的な活用 #将来を見据えた戦略的な投資と将来負担の両立

＜指標設定例（13施策との違い）＞

→ 施策全体の代表指標は置かないものとします

→ 施策の方向性の代表指標は置くが、客観指標でも可とします。

例・収支不足に対する財政調整基金繰入額
・目標管理対象将来負担

意見交換の視点

意見交換の視点（例示）

【全体】

- 設定している指標が前述の（１）～（５）に記載の方針から逸脱していないか
- 施策全体や施策の方向性のめざす状態を測る適切なものとなっているか
- 上位指標から下位指標までのつながりが適切なものであるか

【代表指標（主観指標）の場合】

- 「まち・地域・市民」の状態の変化を測るものとなっているか
- アンケートの回答者にとってわかりやすものとなっているか

  →１つの設問で１つのことを聞いているか

  →誘導表現、曖昧な言葉、難解な専門用語は使われていないか。

【補完指標の場合】

- 代表指標では、測りきれないものを適切に設定しているか（網羅性）。
- 当事者性、客観性の視点を踏まえた指標となっているか。

<まちづくりの総合指標>

市民の「豊かさ」実感（個人幸福度） 地域の「豊かさ」実感（地域幸福度） 暮らしの「豊かさ」実感（生活満足度）	調整中

<施策の代表指標>

「○○○○○○○○○○○○○○○まち」だと感じる市民の割合

基準値 ：○○.○%（R8）

方向性 ：↑

<施策の方向性ごとの代表指標>

施策の方向性(1)	学ぶ力と健やかな体の育成		
代表指標	「○○○○○○○○○○○○○○○まち」だと感じる市民の割合		
基準値	○○.○%（R8）	指標の方向性	↑
施策の方向性(2)	多様性と包摂性のある教育の推進		
代表指標	「○○○○○○○○○○○○○○○」だと感じる市民の割合		
基準値	○○.○%（R8）	指標の方向性	↑
施策の方向性(3)	学校園・家庭・地域社会一体となった教育の充実		
代表指標	「○○○○○○○○○○○○○○○まち」だと感じる市民の割合		
基準値	○○.○%（R8）	指標の方向性	↑
施策の方向性(4)	学びを支える教育環境の整備・充実		
代表指標	「子どもが良好な教育環境で学べるまち」だと感じる市民の割合		
基準値	○○.○%（R8）	指標の方向性	↑

上記に限らず、専門分野の知見や、市内での活動や生活する中での実感を踏まえて、質問や感想、ご意見をいただければ幸いです。

タイムスケジュール

タイムテーブル（第１分科会）

分科会	開催日時	施策	時間（目安）	所要時間（目安）
第１分科会	10月5日（月） 18：30～20：30	開催・全体説明	18：30～18：45	15
		施策01　地域コミュニティ・学び	18：45～19：05	20
		施策02　人権尊重・多文化共生	19：05～19：25	20
		施策03　学校教育	19：25～19：45	20
		施策04　子ども・子育て支援	19：45～20：05	20
		行政運営１　【協働】	20：05～20：25	20

- １施策２０分を目安とし、意見等が無くなり次第、次の施策へ移ります。
- 各パートごとに主担当局・関係局の職員の入れ替えを行います。
- 各パートの冒頭で、事務局より記載内容の概要をご説明しますので、その後意見交換の視点を参考にコメントやご意見をお願いします。